

http://www

全国 R・J グレード部会情報誌

か し め

11号 2015年1月1日

1 三菱航空宇宙
資料室見学

2 鉄 過去
現在
未来

京都 R・J 会

三田 孝 氏

3 編集後記

情報誌「かしめ」は
全国 R・J グレード部
会連絡協議会の情報
誌です。会員と全国の
組合事務局にメール
発信しています。記事
の投稿をお待ちして
います。事務局は東京
鉄構工業協同組合で
す

発行：全国 R・J グレード部会連絡会
事務局 東京鉄構工業協同組合

住所：東京都中央区八丁堀 3-9-5

電話：03(5566)1595 FAX:03(5566)1597 E-mail:jimukyoku@tsfa.jp

発行責任者：松枝 建次

平成 26 年度全国 R・J グレード部会工場見学会実施

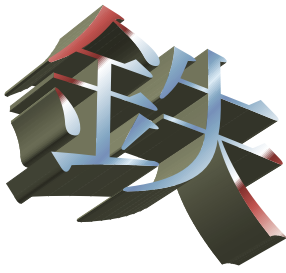
三菱重工航空宇宙資料室を見学

今年度の工場見学会は、かねてから希望が多かった MRJ ジェット旅客機を製造する三菱重工航空機製造工場の見学を計画しましたが、残念ながら航空機製造ラインは見学ができませんでした。しかし、三菱重工のご厚意により小牧にある三菱重工航空宇宙システム製作所資料室を見学することができました。

12月4日(木) JR 名古屋駅に群馬、千葉県、山梨、東京、神奈川、静岡、京都、大阪から14名が集合。小牧へ移動し午後1時から三菱重工航空宇宙システム製作所資料室を見学しました。資料館では担当官から日本の航空技術の発達史を丁寧に説明受けました。

小牧の三菱重工業は戦後連合国側から航空関連の産業を解禁されると同時に航空機製造に取りかかり国産旅客機 YS-11 を開発製造し、現在はハイテク素材のカーボン多用した MRJ ジェット旅客機を開発製造しています。





過去 現在 未来

京都R・J部会員

三田 孝

過去

過去の建築鉄骨の歴史は浅くH型とかトラス工法が主流だった。ジョイントは情報誌のタイトルの通り『かしめ』での作業をしていました。クレーンなどの使用頻度は極めて少なく、危険な仕事内容でした。しかしながら、威勢のいい兄貴分が必ず居て、若い人の面倒見が大変良かったものです。

例えば、食事に一緒に行くとか酒を飲むとか、また遊びを教えてもらったり、その支払いを兄貴分がしてくれたものです。でも仕事になると大声で厳しく注意された時代です。このような時代は、そうですね～50年以上前のことでしょうか。当時、溶接は手棒で切断はガス切断がほとんどでした。自転車やリヤカーで1時間から2時間かけて鋼材を取りに行った事も思い出します。この当時、現場では残念ながら、ヘルメット、安全帯などを着用していませんでした。

今でも時々、テレビで東京タワーの建て方を見ることがありますが、ヘルメット、安全帯、親綱など、全く着用していないです。また工場では屋根もない工場が大変多く昼食も鉄骨の上で食べていました。タバコもポイ捨て状態でした。今なら即、罰則行為で営業停止になっているかもしれません・・・



現在のように法律的に安全性が守られている環境では見る事のできない、200mを超える高所で安全帯（命綱）もせず、鉄骨を飛び回る圧倒的迫力の映像。まさに、鳶の仕事の凄まじさを、感じてもらえること間違いないだろう。

現在

過去あれから何十年、今はトラス工法ではなくコラム、H型鋼、溶接は半自動、加工はロボットが多く使用され技術的にすごくレベルが高くなってきています。また現在は、仲間同士組合を作り工場認定制度も確立され、会員同士交流を深め、情報交換の場を設けたりしています。

工場内の設備は大変良くなり、天井クレーン、大型機械が多く使用され加工のスピードが過去とは比べものになりません。

また現場においても、安全な取り付方法はもちろん、危険な手作業は全くなく、全てクレーンを使用して取り付を行っています。工場の事務所、休憩所は全て冷暖房完備で快適に仕事、休憩・昼食ができます。昔に比べれば仕事の時間も減ったような気がします。

現在は日曜日、祭日は休みが当たり前で、事務所内ではIT機器が多く使用され図面や事務作業のスピードも大変速くなっています。

会員の数も一時の半分になってしまい仕事量も減った気がします。

これを書いている現在は、仕事量も多く少し単価が上がったように思われます。

2020年のオリンピック・パラリンピック効果でしょうか。オリンピック・パラリンピックまでは仕事はたくさんあるように、みんなが思っているようですが、その気分が一過性に終わらないよう踏ん張りどころではないでしょうか。

私も今や64歳、長く仕事を行ってきましたが、これからは若い人にどんどん仕事をしていただくようお願いしたいものです。



私は建設中、何度も見に行きました。

未来

現在から何十年先はどんな業界になっているのか!2055年の春、約40年後、私は高いところに行つてますが現在の若い人は70歳~80歳ぐらいですね。工場がどんな風になっているのか、どんな国、どんな生活、どんな建設業界になっているか想像すると楽しいですね!

24時間完全自動加工、夜に材料を置いておくと全て切断・穴あけ・溶接・仕上げが朝にはできている感ですかね。

40年前(現在)にも一部自動機械が動いていましたが比べ物になりません。当然、建方は自動でクレーン作業などなく、大なロボットで、人がボタン一つで作業指示を行えば、今の作業の3倍位のスピードで建物が完成するのでしょう。

事務所では全てPC作業でコピーも電話もなく全て携帯とメールです。当然FAXもなしです。

会議は東京まで行かずとも全てネット会議です。積算の仕事は全くなくなっているでしょう。全てPCで図面を入力すれば

100tの鉄骨だったら、5分程で積算が出来る時代ですかね。単価も全て決まっているので、形状にもよりますが入力をしたら金額が全部出されるでしょう。図面もないでしょう。加工図面もありません。工場内の天井にレーザーが現物大で映し出しプレート位など全てレーザーが出します。仕事時間も現在の3分の1ぐらいで、みんなは年に何回も海外旅行に行き家族サービスをしているのでは・・・。

編集後記

業界の環境も1年前と大きく変わりました。赤字受注が当たり前の状況でしたが、一昨年暮のオリンピックの誘致が決まり様々なプロジェクトが始動し、川下のR・Jグレードにも仕事が廻って来て会員の皆様も大変多様な状況が続いているようです。こんな時こそ冷静になって仕事に流されるのではなく今後の事業の継続について考える余裕が必要ではないでしょうか。京都の三田さんから「鉄 過去、現在、未来」の原稿を執筆いただきました。ありがとうございました。経営こと、技術のこと、仕事のことなんでも原稿を歓迎します。(加藤)



宇宙ステーションより

「次はどこ現場ですか？」

「☆火星です。」

「次は☆スチール星です。」